

LNG バンカリング事業者の安全操業を重視した ガイドラインの無料公開について

国際港湾協会（IAPH）の地球温暖化への取り組みである WPSP（World Port Sustainability Program）の枠組みの中で設置された「LNG 燃料部会」は、港湾管理者の視点から、LNG バンカリング事業者の安全操業を確実にするためのガイドライン（通称 Audit Tool）を定め、この度ホームページで無料公開する運びとなりました。

【公開先リンク】 <http://lngbunkering.org/lng/content/audit-tool>（英語のみ）

今回のガイドライン策定は、2020年に実施される船舶燃料の硫黄分規制の強化に対応した、業界共通の規則作りとして世界初の試みであり、当社はアジアからの唯一の参加団体として参画してまいりました。

- 【「LNG 燃料部会」参加国】欧州8港、米国1港、アジア1港
- ◆オランダ……アムステルダム港、ロッテルダム港
 - ◆ベルギー……アントワープ港、ジュージュ港
 - ◆ドイツ……ブレーメン・ブレーマーハーフェン港、ハンブルグ港
 - ◆フランス……ルアーブル・ローエン・パリ港、マルセイユ港
 - ◆アメリカ……ロサンゼルス港
 - ◆日本……横浜港（YKIP）

本ガイドラインは、港湾管理者にとって業者に対する安全管理を行う監査ツールであり、LNG バンカリングに参入する業者にとっても重要な参考となります。

さらに、7月にブレーメンで開かれた「LNG 燃料部会」の会議では、次世代船舶燃料の検討を念頭に、部会名称を「次世代船舶燃料部会（CMF：Clean Marine Fuels）」へ変更することとし、メタノールや水素燃料など、将来性のある船舶燃料の検討を進めることが決まりました。

当社は国際協力を重視しながら、引き続き環境対策へ積極的に取り組む所存です。

【参考】 LNG 燃料部会について（英語のみ） <http://lngbunkering.org/lng/about-us>

お問合せ先

横浜川崎国際港湾(株)営業部長 熊 桜 TEL: 045-680-6583 FAX: 045-680-6637